

3. 北関東（地域別調査機関：株式会社日本経済研究所）

（－：回答が存在しない、＊：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連  (北関東)	◎	百貨店（店長）	来客数の動き	・12月後半～1月にかけて、来客数が前年を大きく上回っている。
	○	百貨店（営業担当）	販売量の動き	・初売りは福袋の減少などで苦戦したが、食品エリアが好調に推移している。バレンタイン商戦のスタートも好調で、高単価の商材の売行きが良く、前年比105%と伸長している。
	○	百貨店（店長）	販売量の動き	・売上は前年比100%超で推移している。また、新型コロナウイルス感染症発生前の2018年比でもマイナス5%未満に収まっており、回復傾向にある。
	○	乗用車販売店（経営者）	販売量の動き	・当社の顧客は法人ユーザーが多く、このところ、新車の商用車の注文を受けており、活気がみられるようになっている。また、車検整備等のサービス部門も安定して依頼を受けている。
	○	乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・受注した車両の登録もできるようになり、受注、登録、売上、いずれも増えてきている。
	○	その他飲食〔給食・レストラン〕（総務）	お客様の様子	・給食部門においては、中国との取引が多い受託先で外部人材を減らしたため、提供食数が減少したところがあった。また、職域ごとでは、新型コロナウイルス、インフルエンザ、感冒等の各種感染症り患者発生に伴う提供食数の急変等で、やや売上が不安定となる取引先もあったものの、全般的には安定して推移している。外食部門も、新型コロナウイルス感染症発生前の水準に戻すところまで回復している。
	○	都市型ホテル（支配人）	来客数の動き	・1月の新年会の受注数や今月の獲得受注数も、2019年並みに戻ってきている。
	○	旅行代理店（経営者）	販売量の動き	・春先から少しずつ受注が増え始めたが、物価高で旅行計画を考え直し始める客もいる。プラス、マイナスで考えると少しプラスとみている。
	○	通信会社（総務担当）	販売量の動き	・前年6月から毎月減少が続いていたが、前月から回復基調にある。
	○	美容室（経営者）	来客数の動き	・半導体需要は回復の見込みで、株価も上がっているが、現内閣の施策の成果では、決していない。
	○	設計事務所（所長）	来客数の動き	・問合せが増えている。
	□	商店街（代表者）	それ以外	・前年までは暮れから1月にかけて、大きな商店やホテルの玄関には門松が飾られていたが、今年は街に正月の雰囲気全くない。紅白歌合戦をみて正月を感じるほど街は静かだった。
	□	一般小売店〔土産〕（経営者）	販売量の動き	・3か月前と同様、新型コロナウイルス感染症発生前の売上水準に匹敵するような販売量がある。また、前年度の販売量を上回る傾向が続いていることも変わらない。能登半島地震の発生により、国内観光客の動きは少し鈍くなっているが、海外観光客の動きは、新型コロナウイルス感染症発生前と同程度の活発さが続いている。
	□	百貨店（営業担当）	お客様の様子	・初商より来客数は増加しているものの、それに比較して売上の伸びは弱い状況である。セール時期ではあるが、依然として客の慎重な購買行動に変わりはない。
	□	スーパー（総務担当）	来客数の動き	・来客数の伸長もなく、景気が良くなっているとは思えない。
□	スーパー（商品部担当）	来客数の動き	・競合店出店の影響で、来客数は20%減少が続いている。例年、年明けは客単価も落ちる傾向にあるが、物価上昇の影響もあって、客の買上点数にも影響している。	
□	コンビニ（経営者）	販売量の動き	・前年比で売上は96%、来客数94%、客単価103%で推移している。店舗前の道路工事が続き、交通量が大きく減少している影響で、来客数、売上共に前年割れとなっている。	
□	コンビニ（店長）	単価の動き	・来客数は増えているものの、単価が低くなっていることが気になる。	

□	衣料品専門店 (統括)	販売量の動き	・例年1月末～2月にかけては、販売量はかなり減る。これから通常の商売に戻るのではないかと。
□	衣料品専門店 (販売担当)	来客数の動き	・このところずっと、客がほとんど来ない。年末年始もそれほど出たはこなかったが、新型コロナウイルス感染症の影響による外出控えがそのまま続いている感じである。品ぞろえ以前の問題で、まず客が来ないので、接客のチャンスが全くなく、かなり厳しい。
□	乗用車販売店 (経営者)	お客様の様子	・変わるような様子はみられない。
□	住関連専門店 (店長)	お客様の様子	・初売りで若干上向いたものの、その後の進捗はやや下降している。
□	住関連専門店 (仕入担当)	単価の動き	・前月と比べると単価の上昇がみられる。初売り期間が比較的好調だったことや、冬物商材の動きが遅れて今月に回ったことが要因である。
□	一般レストラン [居酒屋] (経営者)	来客数の動き	・新年会の開催は多数あるが、フリーの客の動きや予約の入り方をみても、体感ではあるが、そこまで動いている様子はない。
□	一般レストラン (経営者)	単価の動き	・客単価が下がったままである。出費を抑えているようで、ドリンクも全く出ない。
□	旅行代理店 (所長)	来客数の動き	・今年の正月は暦上、休日の並びが余り良くなく、1月3日から落ち着いてしまっている。能登半島地震の影響は、ほぼない。
□	タクシー (経営者)	お客様の様子	・夜の動きは良くないものの、昼の動きが少し良かったので、前年同月と比べて5%の増収である。
□	通信会社 (社員)	競争相手の様子	・通信業界の営業戦略では、これまではある程度の境界を持っていたが、業界大手による悪質とも考えられる越境営業が頻発している。現在、業界団体を通じて問題視しており、動向を注視している。
□	通信会社 (営業担当)	来客数の動き	・コロナ禍以降、店舗への来客数は順調に回復しているが、物価が高止まりし、特段変化が生じる状況にない。
□	通信会社 (局長)	それ以外	・世の中の動きで感じていることは、物価が高止まりしており、円安等で企業の売上が上がり株価も上昇しているが、客の買い控えや節約感は強くなっているということである。
□	テーマパーク (職員)	来客数の動き	・毎週、寒波襲来で降雪となる等、不安定な天候の日が多く、入園者数が伸びない。
□	ゴルフ練習場 (経営者)	お客様の様子	・商材の値上げにより、客が買い控えるようになっている。
□	ゴルフ場 (従業員)	来客数の動き	・前月に続き、予約が伸び悩んでいる。オフシーズンの影響ともいえるが、他のレジャーに移っている可能性もあるとみている。
□	その他サービス [自動車整備業] (経営者)	お客様の様子	・年末年始のセールも前年並みで、新型コロナウイルスの影響をまだ受けている。客の経済観念の厳しさも増す傾向で、来客数に大きな変化はない。
□	住宅販売会社 (経営者)	お客様の様子	・ここに来て、貸店舗、貸家、土地等への引き合いが非常に減っている。貸店舗の空室がますます目立ってきており、実際に撤収する貸店舗等が多くなっている。
□	その他住宅 [住宅管理・リフォーム] (営業)	お客様の様子	・建築費用の高騰によるコスト増加がネックになっている。客の希望とコストが折り合わない。
▲	一般小売店 [精肉] (経営者)	お客様の様子	・今年は能登半島地震で始まり、厳しい年になると思っている。最初はそれほどでもなかったが、日に日に悪くなっている。厳しい寒さの影響が大きく、街に出歩く人は少ない。物価も上昇したままで、客は必需品しか買わない状態が続いている。
▲	一般小売店 [酒類] (経営者)	販売量の動き	・贈答用品関係が売れなくなっている。
▲	一般小売店 [青果] (店長)	単価の動き	・秋の作物の生育が遅れて値段が高騰した反動で、野菜は全体的にかなり安くはなっているものの、飲食店等の注文がかなり減っている。
▲	家電量販店 (店長)	来客数の動き	・必需品や消耗品は一定の動きを保っているものの、趣味嗜好商材の動きは苦戦している。

	▲	家電量販店（営業担当）	販売量の動き	・季節商材の比率が高いものの、暖冬のため前年比80%で推移している。
	▲	自動車備品販売店（経営者）	販売量の動き	・例年の1月、正月と比べると、人の動き、来客数等の動きが少し鈍い感じがしている。そのため、販売量も若干少ない。
	▲	その他専門店（総務担当）	来客数の動き	・来客数が減少している。
	▲	一般レストラン〔居酒屋〕（経営者）	来客数の動き	・新型コロナウイルス感染症とインフルエンザの急増で、キャンセルを含め、予約数が減少している。当然、団体客も少なく、しばらくは様子見のようである。元日の能登半島地震の影響も当然大きい。
	▲	都市型ホテル（総支配人）	来客数の動き	・当県独自の旅行支援が前年末で終了した影響もあり、宿泊はかなり落ち着いてしまっている。ビジネス需要が動き出す今月中旬以降は何とか持ち直したものの、前年と比べて落ち込みが顕著である。料飲部門は宴会がまずまず動いている。
	▲	美容室（経営者）	来客数の動き	・政治不信を解決できぬまま、何も変わっていかない。政治に国民はどのように声を上げる方法があるのだろうか、しみじみ感じている。
	▲	住宅販売会社（経営者）	単価の動き	・仕入れ、経費共に物価上昇分が掛かっているが、土地代に転嫁できない。厳しい状況が続く。
	×	一般小売店〔家電〕（経営者）	来客数の動き	・全体的に、客からのアプローチがない。
	×	家電量販店（店員）	販売量の動き	・今月は前年比89%で終了となりそうである。主要品目が大幅に前年を割っており、エアコン82%、冷蔵庫70%、洗濯機85%、パソコン50%となっている。良かったのは映像関連のテレビで105%である。
	×	乗用車販売店（経営者）	お客様の様子	・相変わらず、残業も休日出勤もない。
	×	一般レストラン（経営者）	競争相手の様子	・通りに人が出ていないで、忙しい日と暇な日をはっきりしている。どこの店でもディナーが特に悪いと言っているが、ランチタイムの状況も安定しなくなっている。
	×	タクシー運転手	お客様の様子	・例年1月は新年会等で動きはあるが、今年は新年会もほとんどない。前年9月に初乗り運賃の値上げがあり、今年に入って客が乗り控えているような気がする。当地では、カーシェアリングはないので、駅前レンタカーに流れているようである。昼過ぎから深夜にかけての動きが悪く、売上は12月より3割減少している。
企業 動向 関連  (北関東)	◎	*	*	*
	○	輸送用機械器具製造業（総務担当）	取引先の様子	・取引先の生産が安定しているため、生産が滞りなく計画どおりに進んでいる。
	○	金融業（営業担当）	取引先の様子	・企業間の格差はあるものの、全体的には上振れしている。現場においても活気がみられる。
	○	広告代理店（営業担当）	取引先の様子	・飲食店の宴会需要が増加しており、地方公務員等の宴会も目立つようになっている。週末夜の飲食店街は人通りも多く、予約をしないと満席で入店できないケースも増えている。
	○	その他サービス業〔情報サービス〕（経営者）	取引先の様子	・展示会等での来客数の動きから、以前より情報化投資に前向きな人が増えていると感じている。また、商談件数も増えつつある。
	□	窯業・土石製品製造業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・年度内は忙しく稼働している。
	□	金属製品製造業（経営者）	取引先の様子	・景気の良いところは良いが、下向きのところもあり、かなり差がある。当社の近所でも良しあしの差があって、どこがどうだか分からない状況である。
	□	一般機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・自動車関連の受注は引き続き好調ではあるものの、産業用ロボット向けの業務の低迷が続いている。
	□	一般機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・3か月前から悪い状況が続いており、ここまで低次元の受注量は記憶にない。バブル崩壊後の不景気を経験しているので対処はできるものの、この先どうなるのか不安である。

	□	電気機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・現在は3月の受注をもらっているが、年度末でもあるので調整に入るかと思っていたところ、ほぼ通常どおりに動いている。景気は余り変わらない。
	□	電気機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・売上が増加しているのは、材料費の価格転嫁による点が大きく、生産数量的には変わりなく推移している。
	□	輸送用機械器具製造業（経営者）	取引先の様子	・発注量、販売量、競争相手の様子等、この2～3か月は変わらない。
	□	輸送業（営業担当）	取引先の様子	・新年度前の生活用品、白物家電や寝具、インテリア雑貨等は前年並みの物量を確保できている。ただし、輸送効率化が進んでおり、使役配送全体では、特に、大型車両の頻度が増え、中小型車の物量が減っている。車両廃止体制等の見直しをしている。
	□	経営コンサルタント	それ以外	・個別の企業では、現状の業績推移に大きな変化はない。自動車関係の下請企業は一時的に受注を減らしているが、年間を通じた季節要因によるもので、特に不安はなく淡々と受注を積み上げている。2極化傾向も基本的には変わっていない。飲食関係は引き続き深刻な状況にある。
	□	社会保険労務士	取引先の様子	・顧問先の冬のボーナスは前年と余り変わらなかった。
	▲	不動産業（管理担当）	受注価格や販売価格の動き	・取引先に値上げを依頼しているが、人件費や経費の増加分をそのまま了承してくれる取引先は、非常に少ない。
	×	建設業（開発担当）	受注量や販売量の動き	・公共工事主体で売上の95%を占める建設業を営んでいる。現与党政権誕生後、現政権まで公共工事は順調に推移している。業界としては有り難いが、今期の公共工事発注額は前年比で5%減少、前々年比では19%減少しており、当社受注額も前年比10%減少と、決算が心配である。
雇用 関連 (北関東)	◎	*	*	*
	○	人材派遣会社（経営者）	求人数の動き	・小売、販売、生鮮食料品等や衣料品の一部、通信会社等も随分、販売には力を入れており、商材も整っているように見受けられる。土木も含めた住宅関連では、改築や造成等が進んでいるように見受けられる。製造業でも、自動車部品関連や半導体等の細かい部分も含めて多くの求人がみられ、稼働率もかなり上向きである。依然として、電気料金が上がっており、一部に厳しい業種もある。
	○	人材派遣会社（社員）	周辺企業の様子	・周辺の顧客企業の宿泊施設では、稼働率も堅調に推移し、売上も堅調とのことである。当社にも引き合いはあるものの、人材不足でなかなか対応できないこともあり、厳しいところである。
	○	学校〔専門学校〕（副校長）	求人数の動き	・次年度の求人募集について、既に複数企業から相談を受けている。業種に偏りはあるものの、雇用状況は好調である。
	□	人材派遣会社（社員）	求職者数の動き	・求人に対してマッチする求職者が圧倒的に不足している。特に、20～30代の求職者の不足が続いており、求人を出す企業側の要望とのギャップが解消されない状態である。
	□	職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数は、前年同月比で減少と増加を繰り返している。
	▲	人材派遣会社（管理担当）	採用者数の動き	・派遣社員の採用が減少しているため、やや悪くなっている。
	×	—	—	—